

## 今回のテーマ

### インストラクター養成講習会 in 埼玉に参加してきました

3月4日（日）埼玉県さいたま市で行われた上記講習会に参加してきました。これは1月に青森で実施した講習会の埼玉県 Ver です。大谷先生・成田先生・矢野先生をはじめ、今回は群馬大学社会情報学部教授の伊藤賢一先生が「ネット依存」をNPO 法人子どもとメディアの古野陽一先生が「睡眠障害」と「発達障害を防ぐ対策」を実施しました。（本間はお手伝いと教材づくりのみです）今回は青森講習会と違った側面でお話しされた古野先生の「発達障害を防ぐ対策」の講演について紹介します。

### ネット・メディア機器利用のガイドラインづくり

古野先生が今回、第7分野で取り組んだのは「ガイドラインづくり」です。別紙の子どもの～ガイドライン（例）と整理シートを1日目の最初に配付し、講演を聞きながらメモを取り、最後につなげていくようにしました。乳児、幼児、小学校低・中学年、小学校高学年、中学生・高校生の5つのグループに分かれ、それぞれ書いたメモを共有しながら、ガイドラインづくりを進めました（時間の関係でグループ間共有はできなかったのですが…）その後、古野先生から発達障害を防ぐ対策についての考え方の講演がありました。

子どもの発達に対するメディア機器利用の安全基準は作られていません。（安全性を示すエビデンスが出ていません）企業・官公庁は早急に安全性を示すエビデンスを出すとともに現段階では安全性が保障されていないことを前提にガイドラインを示していくべきです。また、子どもが使う新しいものには発達への悪影響の可能性が常にあることを念頭に、一般的に「良い」と考えられているものも長いスパンで考えれば発達に少なからず影響を与えている（例：××したら早く歩けるようになった→その後は…）子どものメディア利用が問題ないことを証明できる科学的エビデンス出されていないため、因果関係を証明できない＝問題がないではないということです。

スマホ・ネットは大変便利な道具ですが、それは子どもにとって本当に必要なのでしょうか？（子どもの用途は保護者連絡用、ネットを使った学習教材など限られている）なんとなく・暇つぶしで利用しているのが約8割います。便利な道具は体を使わなくなり、手間をかけなくなります。本来子どもはめんどくさいを実践し、体験し、手間をかけ、人と交わり、体全体を使って学んでいきます。スマホ・ネットはその人間が当たり前にやってきた発達を阻害していきます。

スマホ・ネットの社会に対する影響力も大きいです。電気・水道・交通網と同じようにネットはインフラとして社会に整備されています。もしかしたら電気・水道・交通網・放送などのインフラを網羅するのがネットと言っても過言ではないかもしれません。それだけ大きな影響力があります。それだけ大きな影響力があるネットは単なる道具でしょうか？ネットというインフラは既存のインフラをすべて破壊する可能性があります。そのようなインフラを社会的に責任がとれない子どもが安易に利用してよいのでしょうか？責任が取れない子どもだからこそ保護者が責任をもつこととなり、安易な利用をしてはさせてはいけません。

別紙で示したガイドラインはかなり現実的には厳しいものになっていますが、「本当はこうなんだ」としっかり伝えることが大切だとお話しされていました。ほとんどの子どもたちが行動を変えていきますが、それでもできない場合は依存を疑ってもよいかもしれません。

## 草の根サイバーセキュリティ第4回全国大会に参加してきました。

3月5日(月)東京・四谷で開催された上記大会に参加してきました。草の根サイバーセキュリティ連絡協議会は株式会社ラックを中心に複数企業から成り立つ団体です。主にサイバー攻撃から企業や個人を守るため、弊会では3年前に同連絡協議会の助成事業で助成金を獲得し、青森市の古川中学校で大谷先生を講師とした公開出前授業を行っています。そのつながりもあり、毎年弊会から全国大会に参加させてもらっています。

どちらかと言うとセキュリティ問題や有害情報・情報発信問題がメインであり、また、企業を対象としたものが多いので、子ども対象のものは少ないのですが、幅広く情報モラルを学習することができ、大変勉強になります。また、弊会と同じように子どもに情報機器の使い方について啓発している団体とつながることができ、交流の場となっております。そこで聞いてきたことをご報告します。

### 現状から考えるこれからの情報モラル教育 (福島県教育センター 目黒朋子先生)

福島県は震災で原発の影響を大きく受けた県です。その被害はいまだに続いています。その原子力と同じように負の遺産としてインターネットを残してはいけないと正しく学ぶ、知ることが大切と強い熱意のもと、総合的な学習の時間を使って、福島市内の中学校で情報モラルの授業を10時間実施しました。問題解決型の学び、自己決定権とよりよい判断、地域の高校生や小学生・保護者を巻き込むことをテーマに実施しました。右図が授業構想です。特に特筆すべきは3時間目の1台のスマホからです。スマホの中には20種類のレアメタルが使われており、それはコンゴ民主共和国など紛争地域で取られています。子どもたちが作業員として危険な場所で作業しています。スマホから見る身近な問題として、ネットいじめやネット依存などがありますが、世界的にみると人権や環境・労働環境といった問題も見えてきます。

調べ学習ではSSH指定の高校生からプレゼン方法を学び、発表会では地域の小学生を呼び、ポスターセッションなどを行いました。また、各授業のWSには「保護者から」の欄を設け、授業内容を子どもから保護者に伝達してもらい、保護者も一緒に考えてもらうという実践をしました。

### 講演依頼続々！

青森講習会が終わり、講演依頼が届いています。来年度9月に平川市学校保健会様、8月に全国薬物依存家族会様、6月に平川市民生委員会様から依頼をいただいています。

特に認定インストラクターの方々には対応していただく可能性も大きいので、認定課題の早めの提出を。青森市内の小学校からの依頼も来る予定です。

活動が広まり、皆さんの力が急務です。よろしくお祈りします！

#### 1 時間目 (講義)

「情報モラルを学ぼう」  
マインドマップの作成

#### 2 時間目 (講義)

「人工知能・SNS・IoTがもたらす社会」

#### 3 時間目 (講義)

「1台のスマホから」

#### 4～8 時間目

SSHの高校生から  
調べ学習のレクチャー  
調べ学習

#### 9 時間目

課題解決型学習発表会 (小学生対象)  
マインドマップの作成

#### 10 時間目

リフレクション

学校でなかなかまとまった時間がとれないという現状がありますが、これなら実践できるかもと感じました。保護者や地域を巻き込んで実践していく福島県の意識の高さに驚きです。(風評被害で苦しんだ福島県が放射線について正しい知識を知ってもらいたいという動機と同じように「インターネットについて正しい知識を」が根っこにある動機です)



埼玉養成講習会